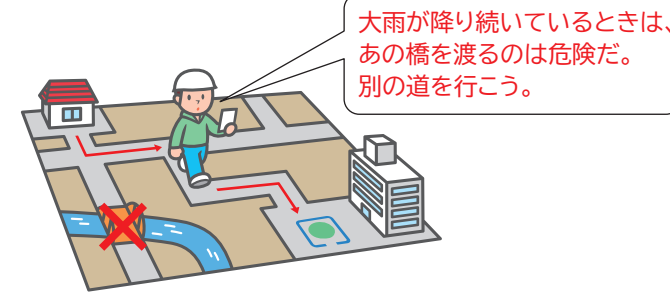


ハザードマップの活用方法

近年、集中豪雨等による水害が頻発しており、短時間で河川が増水したり、堤防が決壊したりして甚大な被害が発生する事例が増えてきています。洪水時の被害を最小限にするためには、平時より水害リスクを認識したうえで、氾濫時の危険箇所や避難場所についての正確な情報を知ることが重要です。

① 危険箇所を確認する

・洪水ハザードマップを見て、自宅とその周辺が浸水するおそれがあるかを確認しましょう。



② 防災情報を入手する

・台風の接近など、災害の発生が予想されるときは、事前に防災情報の入手に努めましょう。



③ 警戒レベルと避難行動を知る

・主に気象台から発表される防災気象情報や、敦賀市が発令する避難情報の内容に応じて、早めの避難を心がけてください。



★敦賀市防災ハンドブックを併せて活用する

敦賀市では、災害への備えや、災害時に注意することなど様々な防災情報をまとめた「敦賀市防災ハンドブック」を市内全戸に配布しています。また、市のホームページでもファイルをダウンロード（PDF形式）できます。非常持ち出し品や備蓄品として用意するものなど避難に役立つ情報を掲載していますので、本ハザードマップと併せて活用してください。

敦賀市ホームページよりファイルをダウンロードできます。
https://www.city.tsuruga.lg.jp/relief-safety/bosai_pamphlet/bousaihandobukku.html

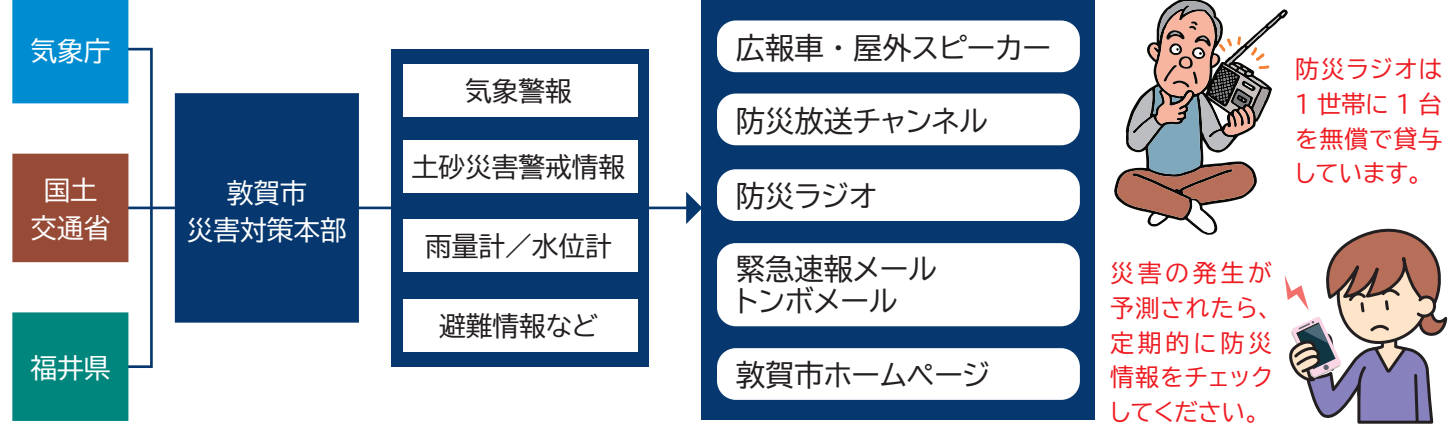
★いざというときの避難先と連絡先を記入しておく

最寄りの避難先		緊急時の連絡先	
名称など		名前	連絡先
名称など		名前	連絡先
名称など		名前	連絡先
名称など		名前	連絡先

防災情報を入手する

災害情報の伝達経路

災害の発生が予測される場合、以下のように災害情報が伝達されます。市民の皆さんは、テレビ・ラジオ・携帯電話・インターネット等を活用して、積極的に情報収集をしてください。



防災情報の入手

- 敦賀市防災メール (トンボメール)** 事前登録必要
避難指示などの災害情報や気象情報などをお知らせします。市外・県外にいても利用することができます。
bousai.tsuruga-city@raidzen2.ktaiwork.jp
- 敦賀市防災情報配信 (ツイッター)**
https://twitter.com/tonbo_tsuruga
敦賀市 (公式) アカウント
[@tonbo_tsuruga](https://twitter.com/tonbo_tsuruga)
- Yahoo! 防災速報** 事前登録必要
https://www.city.tsuruga.lg.jp/about city/news_from_division/shimiseika_tsu_bu/kikkikanraitaisaku_ka/0690000_2020092.html
- 福井県防災ネット**
https://www.bousai.pref.fukui.lg.jp/dis_portal/index.html
- 福井県水害ハザード情報**
<http://sabogis.pref.fukui.jp/FukuiF/loain.asp>
- 防災気象情報伝達システム (屋外スピーカー)**
大雨等により河川が氾濫した場合に浸水が想定される浸水想定区域や過去の浸水実績、浸水写真、避難所等の情報を掲載した地図を公開します。
- 緊急速報メール (エリアメール)**
敦賀市では、携帯電話のサービス「緊急速報メール」を利用して、災害・避難情報などの情報を配信します。(詳しくは携帯電話各社のホームページ等を確認してください)
- 防災放送チャンネル (092ch)**
テレビを「地デジ」に切り替えて、「092」チャンネルに合わせてください。
● 敦賀市からの緊急放送 (避難情報など) ● 気象情報 (気象警報、竜巻注意情報など) ● 防災情報 (自然災害、原子力災害)

危険箇所を確認する

自宅がどのような危険区域に含まれているかを確認する

自宅が家屋倒壊等氾濫想定区域内にある、または浸水深が建物の最上階の床の高さを上回る場合は、洪水の発生によって生命に危害が生じるおそれがあるため早期に立ち退き避難が必要です。大雨が降り続けている場合は土砂災害が発生する危険性が高まるため、土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域内に含まれる場合も早期に立ち退き避難が必要です。

区域分類	凡例	求められる避難行動	立ち退き避難
早期の立ち退き避難が必要な区域	早期の立ち退き避難が必要な区域 (氾濫流と河岸侵食の両方の範囲を含む)	堤防決壊等に伴う氾濫流、または河岸侵食により、木造家屋が倒壊するおそれがあるため 早期に立ち退き避難 を行う。	近隣の安全を確認できる場所まで一時的に移動すること(水平避難)
家屋が水没するおそれのある浸水想定区域	10.0m以上～20.0m未満 5.0m以上～10.0m未満 3.0m以上～5.0m未満	家屋の2階以上で浸水し、家屋が完全に水没するおそれがあるため、 早期に立ち退き避難 を行う。	
土砂災害警戒区域 土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊 土石流	大雨が降り続けているときは、土砂災害が発生する危険性が高まるので、 早期に立ち退き避難 を行う。	

浸水深が最大で建物の2階床までと想定される区域内でも立ち退き避難が望ましいですが、屋内の2階以上の高さで避難できる場合は、無理に避難場所まで移動せず屋内で安全を確認できるよう、備蓄品を2階に用意する等の準備が必要です。

1階まで浸水のおそれのある浸水想定区域	浸水想定区域外
1.0 m 以上 ~ 3.0 m 未満 0.5 m 以上 ~ 1.0 m 未満 0.5 m 未満	床下・床下浸水が想定されることから、 早期に立ち退き避難 を行うことが望ましい。または、自らの判断により屋内で安全を確認する。

用語の説明① 家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流、河岸侵食) について

家屋倒壊等氾濫想定区域とは、家屋の倒壊や流失をもたらすような氾濫の発生が想定される区域をいい、家屋の倒壊・流失の原因に応じて、洪水の氾濫流による範囲と、洪水時の河岸侵食による範囲があります。本ハザードマップでは、これらの想定区域に含まれる範囲を**早期の立ち退き避難が必要な区域**として示しています。



用語の説明② 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域について

土砂災害のおそれがある区域について、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律 (土砂災害防止法) により「土砂災害警戒区域」と「土砂災害特別警戒区域」が指定されています。

急傾斜地の崩壊 (かけ崩れ) 雨や地震などの影響で急峻な斜面が崩れ落ちます。突然起きるため、人家の近くで発生すると、大きな人的被害をもたらします。	土石流 土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へ押し流され、一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。	地すべり 斜面が地下水の影響と重力で、ゆっくりと下方に移動します。土壌の移動量が大きいほど甚大な被害が発生します。	土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン) 土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命、または身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域です。特定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。
土砂災害警戒区域 (イエローゾーン) 土砂災害が発生した場合に、住民等の生命、または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域です。危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。			

警戒レベルと避難行動を知る

警戒レベルと避難行動

警戒レベル	皆ささんがとるべき行動	市から発令する避難情報等	防災気象情報 (気象文、気象庁、福井県発表)	マイ・タイムライン (自分の避難行動計画を記入 (状況に応じてするべきこと))
警戒レベル5 命の危険に安全確保!	災害が発生、又は切迫しています。命の危険があるため、直ちに安全確保しましょう。	緊急安全確保	警戒レベル5相当 氾濫発生情報 大雨特別警報	身の安全を確保する時期
<警戒レベル4までに必ず避難>				
警戒レベル4 危険な場所から全員避難	災害のおそれが高い状況です。危険な場所から全員避難しましょう。	避難指示	警戒レベル4相当 氾濫危険情報 氾濫警戒情報 土砂災害警戒情報	
警戒レベル3 危険な場所から高齢者等は避難	災害のおそれがある状況です。危険な場所から高齢者等は避難を始めましょう。	高齢者等避難*	警戒レベル3相当 氾濫注意情報 洪水警戒 大雨警戒	避難を開始する時期
警戒レベル2 自らの避難行動を確認	自宅等の災害リスク、避難場所・経路、避難のタイミング、避難情報の把握手段を再確認するなど、避難に備えましょう。	避難情報の把握手段	警戒レベル2相当 洪水注意報 大雨注意報	
警戒レベル1 災害への心構えを高めましょう。	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報	警戒レベル1相当 早期注意情報	雨風が強くなる前の時期

災害用伝言ダイヤル171 / Web171

災害時は電話がつながりにくくなります。家族や知人の安否確認には、「災害用伝言ダイヤル171」「災害用伝言板Web171」を利用しましょう。

録音 伝言の録音方法 「171」▶「1」▶市外局番からダイヤル(XXXX)XX-XXXX ▶伝言を登録する

再生 伝言の再生方法 「171」▶「2」▶市外局番からダイヤル(XXXX)XX-XXXX ▶伝言を聞く

※高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせて、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。

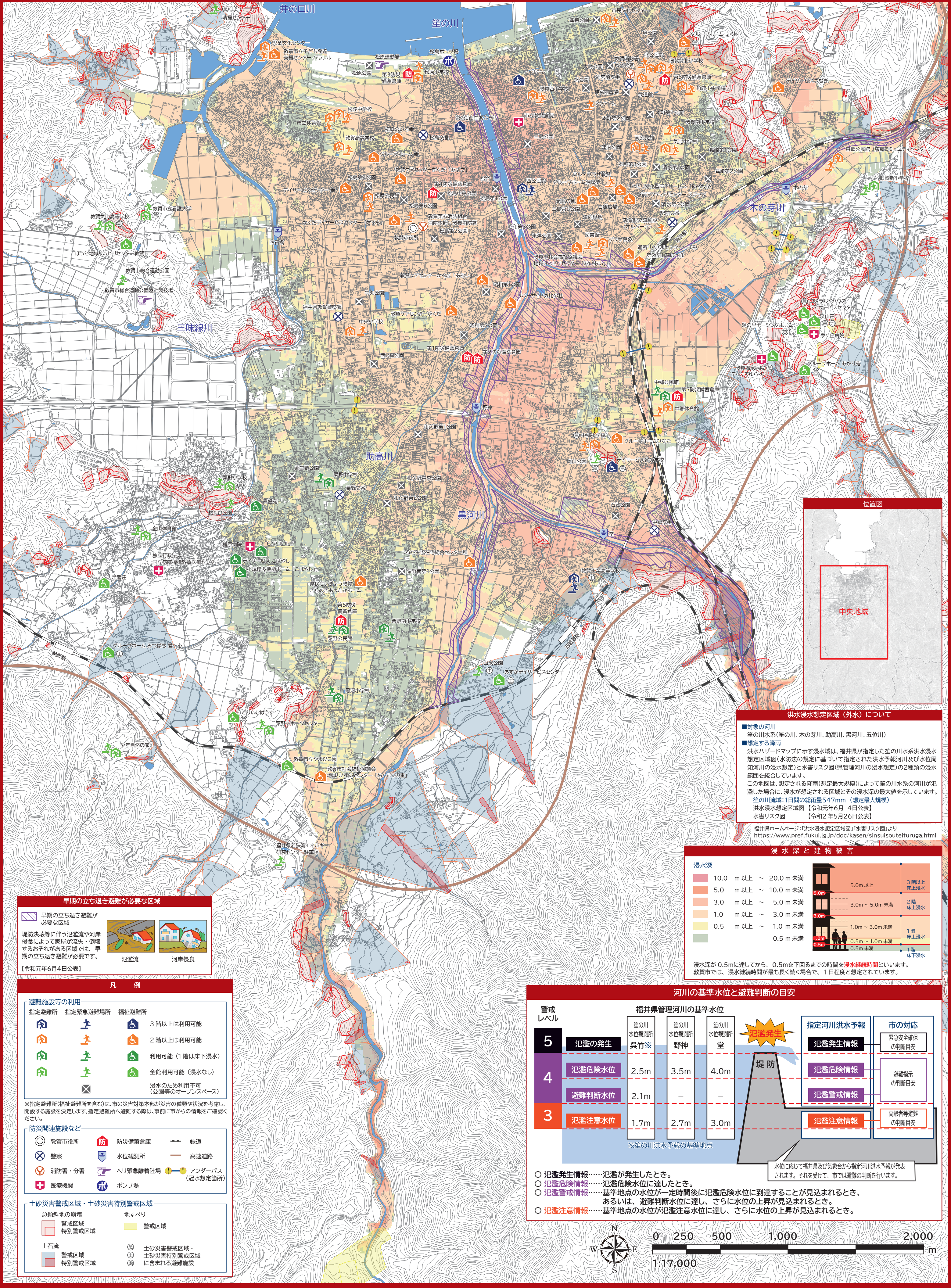
被災地の方: ご自宅の電話番号、または連絡を取りたい被災地の方の電話番号

被災地以外の方: 連絡を取りたい被災地の方の電話番号

※携帯電話による利用もできます。詳細は <https://www.ntt-west.co.jp/corporate/disa.html>

インターネットでのお手続きはこちら <https://www.web171.jp>

敦賀市 中央地域 (想定最大規模) 改訂版 令和3年6月発行



この地図は、敦賀市を流れる室の川水系の各河川が、概ね1000年一度の確率で起こる大雨 (1日間の総雨量 547mm) によって水位が上がり、堤防が決壊したした場合において、あらゆるケースを想定し、浸水の予測される区域や浸水深を示すとともに避難に役立つ情報を取りまとめたものです。なお、この地図に掲載されている情報は、想定される降雨時に浸水する可能性のある範囲を示しているものであり、降雨の条件によっては他の範囲で浸水することもあります。

洪水ハザードマップに関するお問い合わせ: 敦賀市危機管理対策課 (電話) 0770-22-8166
この地図の作成にあたり、国土地理院発行の基礎地図情報を使用した。測量法に基づく国土地理院承認 (使用) R.2.Hs.185



洪水浸水想定区域 (外水) について

■対象の河川
室の川水系 (室の川、木の芽川、助高川、黒河川、五右衛門川)
■想定する降雨
洪水ハザードマップに示す浸水区域は、福井県が指定した室の川水系洪水浸水想定区域 (水防法の規定に基づいて指定された洪水予報河川及び水位関係河川の浸水想定) と水害リスク図 (県管理河川の浸水想定) の2種類の浸水範囲を統合しています。
この地図は、想定される降雨 (想定最大規模) によって室の川水系の河川が氾濫した場合に、浸水が想定される区域とその浸水深の最大値を示しています。
室の川流域: 1日間の総雨量 547mm (想定最大規模)
洪水浸水想定区域図: 【令和元年 4月6日公表】
水害リスク図: 【令和2年 5月26日公表】

情報ホームページ「洪水浸水想定区域図」水害リスク図より
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kasen/sinsusouteituruuga.html>

浸水深と建物被害

浸水深	建物被害
10.0 m 以上 ~ 20.0 m 未満	3階以上 浸水
5.0 m 以上 ~ 10.0 m 未満	2階以上 浸水
3.0 m 以上 ~ 5.0 m 未満	1階 浸水
1.0 m 以上 ~ 3.0 m 未満	1階 浸水
0.5 m 以上 ~ 1.0 m 未満	1階 浸水
0.5 m 未満	床下浸水

浸水深が 0.5m に達してから、0.5m を下回るまでの時間を浸水継続時間といいます。敦賀市では、浸水継続時間の長さを考慮し、1日限りと想定されています。

河川の基準水位と避難判断の目安

警戒レベル	福井県管理河川の基準水位	室の川 水位観測所 奥竹	室の川 水位観測所 堂	指定河川洪水予報	市の対応
5	氾濫の発生	2.5m	3.5m	4.0m	氾濫発生情報 緊急安全確保の判断目安
4	氾濫危険水位	2.1m	-	-	氾濫危険情報 避難指示の判断目安
3	氾濫注意水位	1.7m	2.7m	3.0m	氾濫注意情報 高齢者等避難の判断目安

※室の川洪水予報の基準地点

○ 氾濫発生情報……氾濫が発生したとき。
○ 氾濫危険情報……氾濫危険水位に達したとき。
○ 氾濫警戒情報……基準地点の水位が一定時間後に氾濫危険水位に到達することが見込まれるとき、あるいは、避難判断水位に達し、さらに水位の上昇が見込まれるとき。
○ 氾濫注意情報……基準地点の水位が氾濫注意水位に達し、さらに水位の上昇が見込まれるとき。

